『今日のソ連邦』昭和58年２月１日号（第26巻・第３号・通巻577号）付録

ソ連邦の60年

ソ連邦結成60周年合同祝賀会でのＹ・Ｖ・アンドロポフ・ソ連共産党中央委員会書記長の報告（1982年12月21日）

「今日のソ連邦」1983年第３号付録

親愛な同志のみなさん！
尊敬する来賓のみなさん！
60年前、10月革命の勝利によって解放されたわが国の諸民族は、自由意思でソビエト社会主義共和国連邦を結成した。

ソ連邦結成を宣言したソビエト諸共和国の第一回の結成大会の議事をしめくくるにあたって、M・I・カリーニンは次のように述べた。「非常に大きな苦しみなしに、相互の抗争なしに、友好と兄弟愛の中で暮らす可能性を諸民族に与えるような形態を探求して、人類の最良の英知が理論問題に没頭するようになってから、数千年が過ぎた。そしていま、今日という日にようやく、この方向への最初の礎石が実際に置かれようとしているのである」

資本主義の発展は、民族的抑圧の廃絶をもたらさなかった。逆に植民地的抑圧が民族的抑圧につけ加わり、これを激化させた。ひとにぎりの資本主義大国が数億人を隷属させ、みじめな生活を送る運命を与え、進歩への道をふさいだ。

マルクス主義は、民族問題と社会の社会的、階級的構造、支配的な所有の型との有機的連関を初めて明らかにした。言い換えるなら、民族関係の根は社会的な土壌に入りこんでいるのである。だからこそ、マルクスとエンゲルスは、社会的抑圧の廃絶こそ民族的抑圧の廃絶の条件であり前提であるとの基本的結論を出したのである。「……ブルジョアジーに対するプロレタリアートの勝利は、同時にすべての被抑圧民族の解放へのシグナルである」とマルクスは語った。マルクス主義の創始者たちの不滅のスローガン「万国のプロレタリア団結せよ！」は、社会的なものをも民族的なものをも含めたあらゆる形態の隷属に反対する勤労者の国際的闘争への呼びかけとなった。

新しい歴史的条件のもとでK・マルクスとF・エンゲルスの事業を継承したのは、V・I・レーニンであった。革命の曙光がロシアを照らし始めていた時期に、レーニンは革命運動の先頭に立った。正当にも〝諸民族の牢獄〟と呼ばれていたこの国では、当然のことながら、民族問題はボリシェビキ党の戦略と戦術を立てるさいの最重要問題の一つとして打ち出された。

レーニンの注意の中心におかれたのは、諸民族の真の永続的な接近を保障する唯一の確実な手段としての民族自決権であった。自決権のみが、帝政打倒と新社会創設をめざす闘争ですべての民族の自由意思による結集の思想的・政治的基礎となりえた。レーニンはこのように問題を提起した。レーニン党の民族政策の中軸は、このようなものであった。

10月革命は政治的スローガンと要求を日常の組織活動の次元に移した。実生活そのものが、きわめて困難な経済、社会、対外政策、防衛の課題が、諸民族の団結を求め、ロシア帝国の廃虚の上に生まれた諸共和国の統合を求めていた。

今日自明の理と見えることも、この変動激しい過渡期にあっては決して自明ではなかった。民族綱領の全般的構想と前提を具体的な国家形態、政治制度の中に盛り込まなければならなかったが、その探求は先鋭な論争の中で行われた。国家連合（コンフェデレーション）の枠の中で諸共和国のゆるやかであいまいな連合体をつくるという計画から、これら共和国に自治権を与えてロシア連邦に編入せよとの要求にいたるまでの、ありとあらゆる意見が衝突した。唯一の正しい道――社会主義的な連邦結成の道を見いだし、固守するためには、V・I・レーニンの天才と権威が必要とされた。

レーニンが示した道の本質はなにか？　簡単に次のように言うことができよう。それは、社会主義諸共和国の連邦の最大限の強固さを保証するものとしての、自由な諸民族の同盟の完全な自発性である。それは、大小すべての民族の完全な同権、これら諸民族の法的不平等のみならず、事実上の不平等の廃絶をもめざす首尾一貫した方針である。それは、兄弟的同盟の枠内での各共和国、各民族の自由な発展である。それは、国際主義的自覚をねばり強く育成することであり、わが国の大小すべての民族の接近をめざす不動の路線である。

まさにソ連邦結成の年に、V・I・レーニンは民族問題について思考の過程をあざやかに反映する次のような文章を書いた。「よその国ではとても見られないほど多くの民族をかかえた国家での民族問題解決のわれわれの5年にわたる経験は、このような場合における諸民族の利

益に対する唯一の正しい態度が、その利益を最大限に満足させ、この基盤の上での紛争のあらゆる可能性を排除するような条件をつくることであると、われわれに完全に納得させている。われわれの経験は、さまざまな民族の利益をきわめて注意深く扱うことだけが紛争の基盤を一掃し、相互不信を根絶し、何らかの陰謀があるのではないかとの危惧を排除し、それなくしては諸民族間の平和な関係も、現代文明における貴重なものすべての成功裏の発展も絶対に不可能な信頼を、とくにさまざまな言語を話す労働者と農民の信頼をつくり出すとの確固たる信念をわれわれにもたせた」

レーニンの遺訓、民族政策のレーニン的原則は、われわれにとって神聖なものである。われわれは、それらに依拠し、それらを実践の中で首尾一貫して確立しつつ、強力な国家――その結成が社会主義の発展における大きな一歩であっただけでなく、全世界の歴史の過程における最重要な転換点の一つとなったソビエト社会主義共和国連邦を創建した。

I　歩んできた道の成果と民族政策の諸課題

ソ連がこの60年間に歩んできた道は、まるまる一つの時代である。後進性、貧困、荒廃から最高水準の文化と不断に増進する国民福祉をもつ強力な現代の大国へのこれほど急激な飛躍は、歴史に前例を見ないものであろう。

われわれの発展の最も重要な成果とは、どのようなものか？

――民族問題の解決は階級的基盤にもとづいてのみ発見しうるというマルクス・レーニンの学説の歴史的な正しさが完全に実証された。社会的敵対とともに民族的反目、あらゆる種類の人種的、民族的不平等と抑圧も過去のものとなった。

――共産党とその科学的に根拠づけられた政策が、民族問題の社会主義的解決における指導的、嚮導的な力であり、この解決の正しさの保証であることが、明確に示された。

――まだ封建的・家父長的関係や氏族的関係さえもがしばしば優位を占めていた後れた民族辺境が消滅した。

――全国家的な計画によって方向づけられているすべての共和国のダイナミックな経済発展にもとづいて、単一の連邦国民経済コンプレクスが形成された。

――各共和国の社会的構造が質的に変化し、それぞれの共和国で現代的な労働者階級が育ち、農民は新しいコルホーズの道を進み、自国の知識人層がつくり出され、国家生活および社会生活の全分野において熟練要員が育てられた。

――進歩的な伝統、文化財の盛んな交換にもとづいて、社会主義的多民族文化が花開いた。

――現在、新しい歴史的な共同体――ソビエト国民を形成する社会主義諸民族が形成された。

各共和国の利益はますます緊密にからみ合っており、ソ連の大小諸民族の創造的努力を単一の水路に向ける相互援助、相互交流は、ますます効果的になっている。わが国におけるそれぞれの社会主義的民族の全面的な発展は、法則的に各民族の一層の接近へと導いている。

それぞれの連邦構成共和国――ロシア連邦、ウクライナ、ベロルシア、ウズベク、カザフ、グルジア、アゼルバイジャン、リトワ、モルダビア、ラトビア、キルギス、タジク、アルメニア、トルクメン、エストニア――繰り返すが、すべての連邦構成共和国がソ連の経済と文化の全般的高揚にかけがえのない寄与をしている。そして、このことは、同志のみなさん、われわれの創造的な力の単なる足し算ではなく、何倍にもふえる掛け算なのである。

20の自治共和国と18の自治州および自治管区に住む大小すべての民族は、兄弟的家族の中でその可能性を成功裏に発揮している。ソ連がずっと以前に祖国となった何百万というドイツ人、ポーランド人、朝鮮人、クルド人、その他の民族に属する人々も完全な権利をもったソ連市民である。

わが国の諸民族は、ロシア人に特別の感謝の言葉を寄せている。ロシア人の私心なき兄弟的援助なくしては、どの共和国も現在の成果をあげることは不可能であったはずだ。ソ連のあらゆる民族の幾百万の人々の生活に自然に入り込んだロシア語は、国の経済、政治、文化生活の

中で、大小すべての民族を接近させ、世界文明の富に合流させる上できわめて重要な要因となっている。

ソ連新憲法は、ソビエト社会の民族的・国家的基盤の強化における大きな道標となった。このすぐれた文書では、これまでの発展の総括が行われているだけでなく、わが国の大小すべての民族の一層の繁栄と接近の強固な安定した政治的・法的基盤が明らかにされた。

60年間に民族関係の中で起こった現実的な質的変化は、搾取制度がわれわれに残した形での民族問題が見事に解決され、最終的に、後戻りすることのない形で解決されたことを証明している。国の多民族構成は史上初めて、その弱さの源泉から力と繁栄の源泉に変わった。

ちょうど10年前にこの会場で演説したレオニード・イリイチ・ブレジネフは、いみじくも次のように語った。「わが国には……私たちが、当然の権利をもって諸民族のレーニン的友情と呼んでいる、前例のない諸関係が成立した。この友情は私たちのかけがえのない財産であり、ソビエトのすべての人々にとって最も重要な、最も大切な社会主義の獲得物の一つである。われわれソビエトの国民は、この友情をつねに瞳のように大切にしていくだろう！」

今日のこの祝日にあたり、われわれはすべての民族の多くの世代のソ連国民、男性と女性、労働者と農民、知識人、党とソビエトの活動家、軍人、共産党員、非党員――社会主義を建設し、最も困難な戦争中に社会主義を守り抜き、諸民族の平等、友好、兄弟愛についての千年来の夢を実現させた人々すべて――の功績に敬意を表するものである。

同志のみなさん！　これまでなされたことの総括をするにあたり、われわれは、当然、まだこれからしなければならないことに重点をおく。われわれの究極の目標は明確である。それは、V・I・レーニンの言葉で言うならば、「民族の接近だけでなく、融合でもある」。党は、この目標への道程が長いことをよくわきまえている。ここでは、いかなる場合も先走りしてはならないし、またすでに機の熟したプロセスを押しとどめることも許されない。

民族問題の解決における成功は、多くの大小民族の統一国家の枠内での生活と労働の事実自体に起因するすべての問題が解消されたことを意味するものでは決してない。このようなことは、諸民族が存在する限り、民族的相違がある限り、とても無理であろう。そしてこれらは長く、階級的相違よりもはるかに長く存続するであろう。

だからこそ、発達した社会主義の改善――まさしくそのようにわれわれは現段階での党と国民の活動の主要内容を定義できるのだが――には、考えぬかれ、科学的根拠をもった民族政策も含まれなければならない。その若干の課題にふれておきたい。

単一の連邦への統合が、わが国の諸民族や各共和国にいかに大きな利益と特典を与えてくれたかということはすでに申し上げた。しかしこのような統合によって開かれる可能性はまだ決して汲みつくされてはいない。

経済を例にとろう。現代の生産力は、異なる国々が問題となる時ですら統合を要求している。まして、同じ国内のさまざまな地域や共和国の努力の緊密な、巧みな結合はなおさら要求されている。各共和国の天然資源や労働力資源、気候の特色を最も賢明に利用し、この潜在力を全連邦の力に最も合理的に組み入れること――それこそが国家全体にも、各地域、各民族にも最大の利益をもたらすのである。

以上がわれわれの原則的目標である。これを実現するために、われわれの中央および地方の計画機関や経済機関は少なからず働かなければならない。生産力の配置、地域別の専門化と協業、経済連関・輸送のパターンを一層改善することも求められている。もちろん、この課題は容易ではない。だが、これはさしせまった課題であり、その解決は著しい利益を約束している。

現在、国全体をあげて食料計画の達成と取り組んでいる。この計画では、すべての連邦構成共和国の具体的課題が明確に決定されている。そして各共和国は、ソ連国民にスムーズに食料を供給するという最も重要な事業に現実の貢献をする――しかも、すでにごく近い将来に――ために大いに努力しなければならない。

周知の通り、採択ずみの計画では、最も重要

な緊急課題が問題になっている。しかし、将来を考えるなら、わが国の農工コンプレクスの一層の発展は——国の経済全体についても同じだが——全国的規模でのより根本的な、一貫した農業の専門化を要求していることを見ないわけにはいかない。

もう一つ問題がある。わが国のような、きわめて広大な国家では、輸送機関が全く特別の役割を果たしている。その役割は、経済面にも、政治面にも、さらに言うならば心理面にも及んでいる。

うまく働く輸送機関がなければ、全共和国の急速な発展も、共和国間の経済協力の一層の深化も保障することはきわめて困難である。しかし輸送機関が重要なのは、もっぱら経済的な課題を解決するだけのためではない。輸送機関や道路網の発達は、農村と都市を接近させ、たとえば、人材の農村定着をも少なからず促進するであろう。これは、言うまでもなく、労働力資源の合理的で柔軟な利用という大きな社会的課題の解決に役立つ。全ソ連邦規模での日常的な人的交流、すべての共和国間、国内の地域間の活発な交流を保障することによって、輸送は人々が最も広い意味での社会主義文明の成果に浴するのに役立っている。

連邦への統合は、ソ連国民の物心両面の富の補足的な源泉の一つとなった。しかしここでもわれわれはまだ決してすべての可能性を利用しつくしてはいない。文化の相互富化をさらに実り多いものにし、わが国の諸民族のそれぞれの文化が与えてくれるよりよきもののすべてにすべての人々が一層広く身近に接することを可能にする新しい、今日の要求に合った活動方法や活動形態をねばり強く探求する必要がある。この崇高な事業では、ラジオとテレビが、言うまでもなく他のマスメディアも同様だが、ますます大きな役割を果たすはずだ。

無論、ここで、各民族の精神的遺産、伝統、風俗には、良いものだけではなく、悪いもの、時代後れのものもあることを銘記する必要がある。そしてここから、もう一つの課題——この悪いものを保存するのではなく、すたれたもの、ソ連的社会生活の規範や社会主義的道徳やわれわれの共産主義的理想に反するもののすべてから解放されること——が生まれる。

実生活は、大小すべての民族の経済的・文化的進歩が、それぞれの民族的自覚の必然的な成長を伴うことを示している。これは法則にかなった客観的プロセスである。しかし、達成された成功に対する自然な誇りが、民族的うぬぼれあるいは高慢に転化し、唯我独尊の傾向や他民族を尊重しない態度を生みだすことのないようにすることが重要だ。だが、この種の否定的現象はいまだに見受けられる。これを過去の遺物とのみ解釈するとすれば誤りだろう。時として活動の中でのわれわれ自身の誤算もこれらを生む。同志のみなさん、ここでは、どんな小さなことも見のがしてはならない。ここでは、すべてが、言語や過去の記念物に対する態度も、歴史的事件の解釈も、われわれが農村や都市をどのように変え、人々の労働・生活条件にどのように働きかけていくかということも重要なのである。

住民の自然な移住の結果、わが国の各共和国、そして、程度の差こそあれ各州や各都市が、さらに一層多民族的になっている。すなわち、各地の党およびソビエト機関、われわれのすべての要員がますます多く、党の民族政策の普及者、推進者となっている。そして、全要員は、仕事の上でも、日常生活の上でも大小にかかわらずすべての民族の代表同士の調和のとれた兄弟的関係を保障しながら、毎日、この政策の崇高な原則を実現していかなければならない。

党は、われわれの社会の主導力であるソ連の労働者階級の民族部隊の成長につねに大きな注意を払ってきた。そしてその成果は現に出ている。今や労働者はすべての連邦構成共和国で最大の社会的グループを構成しているのだ。しかし一部の共和国では、労働者階級の中で昔からそこに住む民族がより多くの数を占めるべきだ。ここから、ソ連共産党第26回大会で提起された課題——各連邦構成共和国に住む大小すべての民族から熟練労働者の養成を拡大し、改善する——も生まれている。このことは経済発展のために必要である。それは政治的にも重要である。多民族労働集団、何よりもまず、労働者集団——これこそ、ソ連の諸民族の国際主義的精神

が最高にはぐくまれ、その兄弟愛と友好が強められる場にほかならない。

各共和国およびソ連全体の党機関、国家機関における勤労者の代表権の問題も、きわめて重要である。もちろん、代表権の何らかの形式的基準が問題なのではない。こうした問題の解決への算術的アプローチは、不適当である。しかし、あれこれの共和国に住むすべての民族がさまざまなレベルの党機関、ソビエト機関に適切に代表を送れるように、たえず努力しなければならない。人材の登用と配置にあたって実務的、道徳的、政治的資質を考慮し、注意と配慮を払い、手際よく行うことが、連邦共和国および自治共和国の多民族構成という条件のもとでは特に不可欠である。

たえず変わることなく重要な意義をもつ問題は、国のすべての大小諸民族の相互の尊敬と友好、偉大な祖国ソ連への愛情、国際主義、他国の勤労者との連帯の精神でソ連人を教育することである。つねに国際主義のすばらしい学校であったすべての党およびコムソモール機関、各級ソビエト、労働組合、軍隊は、この課題を解決する使命をもっている。これは、国のすべての教育機関の日常の配慮の対象とならなければならない。

国際主義の教育の分野では、すべてのイデオロギー活動、大衆政治活動におけると同様に、われわれは大きい諸課題に直面している。われわれの成果を説得力をもって具体的に示し、実生活によってたえず生み出される新しい諸問題を真剣に分析すること、思想と言葉の新鮮さ——これがわれわれの宣伝活動全体を改善する道である。この宣伝は常に誠実で現実的で、さらには、興味深く、わかりやすく、すなわち、もっと効果的でなければならない。

ソ連の諸民族の友好と協力の今後の発展は、社会主義的民主主義の深化に左右されるところが大きい。社会的、国家的諸問題へのすべての民族の勤労者のますます広範な参加——わが国の政治生活の主要な傾向をこのようにきわめて簡潔に特徴づけることができる。党も、この傾向の強化と発展のために全力をつくすだろう。

同志のみなさん、以上にのべたすべてのことからわかるように、成熟した社会主義の諸条件のもとで、諸民族間の相互関係の問題は議題からはずされていない。この問題は、共産党の特別な配慮、たえまない注意を必要としている。党は、この問題を深く探究し、その解決の方法を決定し、発達した社会主義の実践によって民族政策のレーニン的原則を創造的に豊かにしていかねばならない。

われわれが現存する諸問題についても、未解決の諸課題についても大胆に語るのは、これらの諸問題、諸課題はわれわれにとって解決可能なものであり、われわれはそれを解決できるし、解決しなければならないということをしっかり知っているからだ。大言壮語ではなく、実際に仕事にかかる気構え——偉大で強力なソビエト社会主義共和国連邦をさらに強化するために今日必要なのは、このことである。この会場に集まったすべての人々、わが党全体、すべてのソ連国民がそう考えているものと、私は確信している。

II ソ連は平和と諸国民の自由の偉大な事業のとりで

同志のみなさん！モスクワでソ連邦結成に関する宣言と条約が採択されたのと同じ一九二二年12月30日、ローザンヌ会議では、レーニンの委託により、ソビエト諸共和国は、全般的平和の利益に導かれて、「人種間の政治的平等の制度、民族の自決権とすべての国家の完全な政治的、経済的独立の権利とを尊重する制度の樹立を全力をあげて促進することを……自らの緊急の義務」とみなす、との声明がなされた。

世界で最初に勝利した社会主義の国が一貫して推進し始めたまったく新しい対外政策の本質は、このように簡潔、明瞭に表明された。

そして、新しい社会主義諸国が誕生してくるにつれて、まったく新しい型の国際関係が形成され始めた。この国際関係の基礎には、各国の利益、特殊性、伝統を完全に尊重するもとでの思想的統一、目的の共通性、同志的協力がある。この国際関係の基礎には、社会主義的国際主義の原則がある。

社会主義諸国はこの国際関係を発展させるに

あたって、まだ誰も分け入ったことのない道を進んだ。人類のこれまでの経験は、実生活が提起した問題に対する解答を教えてはくれなかった。最初からすべてが順調にいったわけではないのは当然である。しかも社会主義世界体制を形成した各国はその国内の発展水準から見て、その国が置かれていた外的条件から見ても大きく異なる出発点から始めたのだから、なおさらのことだ。社会主義世界自体の中の変化からいつでも適時に結論を導き出すことができたわけでもない。しかも、国際情勢もまた、あれこれ考えるひまを与えてくれなかった。新しい形態の関係を、言うなればぶっつけ本番で試さなければならなかった。根絶しなければならない幻想も、高くついた誤りもあった。

しかし、わが国の今日を見るならば、われわれは多くの事を学んだ、社会主義諸国の共同体は、現代世界で巨大で、有益な役割を果たしている強力で健全な有機体となっている、と満足の念をもって語ることができる。兄弟的協力のメカニズムは、われわれ諸国の生活の最も多様な領域、社会主義的創造の事業におけるわれわれの相互協力のさまざまな方向に及んでいる。われわれは、共同体の共通の利益と共同体に加わる個々の国の利益を結合するますます有効な道を共同の努力によって見い出している。

もちろん、いまでもわれわれは、すべての困難が過去のものとなり、理想が達成されたと言うことはできない。昨日はそれですんだことも、今日は改善しなければならない。わが共同体諸国の前には多くの重要な課題がある。それは、社会主義的獲得物と価値を帝国主義の侵害から守ることであり、平和の強化と緊張緩和のための共同闘争であり、政治的協力を一層完全にすることであり、経済統合のプロセスに新しい刺激を加えることでもある。

というわけで、今後なすべき仕事は山積している。ソ連としては世界社会主義の強化と繁栄のために出来得る限りの事を行っていくだろう。このことをはっきり言っておきたい。

同志のみなさん！　民族問題の社会主義的解決の経験は、植民地抑圧から解放をかちとった数十の国で注意深く研究されている。社会主義建設におけるわれわれの成果、ファシズムに対する歴史的勝利、ソ連の大小すべての民族の繁栄は、諸国民の解放闘争を強く刺激した。

植民地主義の廃絶をめざすソ連の積極的な断固たるたたかい、諸国民の解放と平等に対する変わらぬ支援は、諸国民の自由と進歩への道を容易にしている。アジア、アフリカ、アラブ東方、ラテンアメリカの諸国民はこのことをよく知っている。

植民地的抑圧から解放をかちとった新興諸国は現在、民族形成と社会発展の複雑な時期を迎えている。過去の植民地時代からうけついだ後進性、国内の不和や紛争が足をひっぱっている。新植民地主義者の仕掛けた無数のわなが、まだ力を固めていない国々に脅威を与えている。しかし、これら諸国民が、帝国主義に対する断固たる抵抗、経済的発展と社会・政治的発展の十分に練られた戦略、利益と権利の相互尊重によって、いわゆる成長の困難を克服することができるであろうと、われわれは確信している。ソ連の人々は、これらの諸国民が独立の強化と福祉や進歩のための闘争で大きな成功を収めることを願っている。

われわれは、その平和愛好政策が国際生活に有益な貢献をしている非同盟運動を尊重している。われわれは、今日もなお、それぞれの民族の自由と独立、存続自体のために闘争することを余儀なくされている人々の側に、侵略者の猛攻をはねかえすことを余儀なくされ、あるいは侵略の脅威にさらされている人々の側に、だんことして一貫して立っている。そしてこのわれわれの立場は、ソ連が首尾一貫して、たゆみなく進めている地上の恒久平和をめざす闘争と切り離せない。

60年間にソビエト国家の地位は抜本的に変わり、その権威と影響力は計り知れないほど増大した。平和協力の強固なきずながソ連とすべての大陸の諸国とを結びつけている。ソ連の声は国際フォーラムで権威をもって響いている。平和共存の諸原則——ソ連の対外政策の基礎——は、広範な国際的承認を得ており、ヘルシンキ全欧会議の最終文書を始め、数十の国際的諸文書に含まれている。ソ連の諸提案は、平和と安全の強化の諸問題に関する国連の最も大きな諸

決議の基礎になった。

しかし平和強化の道での一歩一歩は、帝国主義的〝タカ派〟に対する緊張した闘争を要求して、簡単には進まなかったし、いまも進んでいない。闘争は、社会主義への階級的憎悪が現実の感覚に打ち勝ち、時には全く良識に打ち勝っているような最も好戦的なグループが西側で活発化している現在、特に激化している。

帝国主義者は社会主義諸国に経済戦争をしかけ、その社会制度を揺るがすことを期待して内政に干渉しようとする目論見を捨てておらず、ソ連と社会主義共同体のすべての国に対する軍事的優位をかちとろうと試みている。

もちろん、これらの計画は失敗する運命にある。歴史的発展の歩みをあともどりさせることはだれにもできない。社会主義の〝息の根をとめる〟試みはソビエト国家がやっとひとり立ちし、世界で唯一の社会主義国家であった時代でさえ、挫折した。ましていまでは、もうそれはなんの結果ももたらさないだろう。

しかしワシントンの現在の政策が、国際情勢を極端に危険な限界にまで緊迫させたことを見ないわけにはいかない。

米国と米国を先頭とするＮＡＴＯブロックの戦争準備は、史上前例のない記録的な規模に達した。ワシントンの公式スポークスマンの口からは、〝限定〟〝長期〟その他の核戦争の可能性にかんする論議が聞かれる。人々を安心させ、核戦争は容認できるという考えに慣れさせようとしているのだ。どのようにどこで核の竜巻が突発しようとも、それは不可避的に制御ができなくなり、全般的な破局を引き起こすだろう。これを認めない者は、まさにわれわれの時代の現実に盲目であると言わなければならない。

この問題に関してのわれわれの立場は明確だ。小さなものであれ、大きなものであれ、限定されたものであれ、全面的なものであれ、核戦争は許してはならない。新しい戦争に火をつけようとしている者たちの手を押さえること——いま、これ以上重要な課題はない。すべての国民の死活的な利益がそれを要求している。だからソ連が最初に核兵器を使わないと一方的に約束したとき、それは全世界で賛同と期待をもって迎えられたのである。わが国のこの措置に他の核保有国が続けば、それは核戦争防止の事業における実際に重みのある貢献になるだろう。

ワルシャワ条約は通常軍備で優位に立っているから西側はそのような約束をすることはできない、と言われている。何よりもまず、言っておかねばならないが、こういう言い分は間違っている。そのことは事実と数字が証明している。さらにわれわれは、周知のように、通常軍備を制限し、この問題でも理性的な、相互に受け入れられる解決を探求することをめざしている。われわれは双方が核兵器のみならず通常兵器も最初に使わないことについても取り決める用意がある。

核戦争の脅威を実際に減らすことにつながる主な方法の一つは、もちろん、ソ連と米国が戦略核兵器の制限と削減について合意を達成することである。これに関する交渉に対してわれわれはあらゆる責任をもって臨んでおり、双方のどちらにも損失をもたらさず、同時に双方の核兵器庫の削減につながるような誠実な合意を探求している。

いまのところ米国側は、残念ながら別のアプローチを見せている。口では〝抜本的な削減〟を呼びかけながら、米国は実際には主にソ連の戦略戦力の削減を考えている。一方自分の方には、戦略軍備の増強での行動の自由を残しておこうとしている。われわれがそのようなことに合意できるなどと考えることすらナンセンスだ。これらすべては、もちろん、ペンタゴンを満足させるだろうが、ソ連にとっては、そして平和の維持と強化に関心のあるすべての人々にとっては、決して受け入れられないものである。

ソ連の提案をこれと比較してみよう。ソ連の提案はパリティーの維持から出発している。われわれは自分たちの戦略軍備を25％以上削減する用意がある。当然、両国の戦略兵器運搬手段の数を同等にするために、米国の軍備もこれに応じて削減されなければならない。われわれはまた、核弾頭の量を根本的に減らし、核兵器の改良を最大限制限することを提案している。

われわれの提案は、例外なくすべての種類の戦略兵器に及んでおり、それを数百の単位で削減することを予定している。ソ連の提案はこの

分野でのいっそうの軍拡競争のすべての可能なチャンネルをふさぐものである。それも手始めにすぎない。いま述べたことをもとにして合意が得られれば、それは戦略兵器の数のさらに大規模な削減のための出発点になるだろう。これについて双方は、世界の戦略的情勢全般を考慮に入れて合意することができるだろう。

交渉が行われているあいだは、われわれは良識が示す通りのこと、すなわち、双方の戦略兵器を凍結することを提案する。米国政府はそれを望んでいない。いまやすべての人々にとって、それがなぜかは明らかである。米国政府は核軍備の新たな著しい増強に踏み切ったのである。

この増強を正当化しようとするワシントンの試みは、明らかに根拠がない。米国はソ連に〝立ち後れ〟ており、それを挽回しなければならない、といった主張は明らかにウソである。これについてはすでに再三述べられている。例えばMXミサイルのような新兵器システムは〝軍縮交渉の成功を助ける〟ためのものだ、といった論議にいたっては、もはやまったくのお笑いぐさである。

軍備の一層の増強計画は、ソ連に一方的譲歩を強いることはできない。米国側の挑戦に対して、われわれは対応する自国の兵器システムで、つまりMXミサイルには同様のわれわれのミサイルで、米国の長距離巡航ミサイルには現在すでに実験中のわが国の長距離巡航ミサイルの配備で対応せざるをえない。

これは決して脅しではない。われわれはこのような事態の進行を全く望んではおらず、それを避けるために全力を尽くしている。だが米国の政策決定者も、広範な世論も、現実の事態をよく理解しなければならない。だからワシントンが実際に、新兵器体系が交渉での米国の〝切り札〟となると本気で信じているなら、これらの〝切り札〟がまやかしだと知ってもらいたい。ソ連に対する軍事的優位の達成を志向する政策は、お先真っ暗で、戦争の脅威を強めるだけである。

次に、いわゆる信頼措置について。われわれはこれに真剣に対処している。

現代兵器の効力の速さと威力のもとでは、相互不信の空気は特に危険である。ばかげた偶然や誤算、技術的故障からさえ、悲劇的結果が起こり得る。だから、引き金にかけた指をはずし、兵器に確実な安全措置をかけて置くことが大切である。この方向で、中でもヘルシンキ合意の枠内で、いくつかの措置がとられている。ソ連は、周知のように、より真剣な性格の、より範囲の広い措置を提案している。この信頼措置に対するわれわれの提案はジュネーブで行われているソ米核兵器制限削減交渉のテーブルにものせられている。

米国大統領の最近の提案も含め、この分野の他の提案も、われわれは検討する用意がある。だが、米国大統領が述べたような措置だけでは相互不信の空気はなくならず、信頼は回復しないだろう。何かもっと大きなこと、つまり情勢を正常化し、敵意と憎悪の宣伝や核戦争の宣伝を拒否することが必要である。もちろん、信頼と偶発戦争も含めたあらゆる戦争の防止への主要な道――それは軍拡競争の停止であり、国家間の平穏で礼儀正しい関係への復帰、デタントへの復帰である。

われわれはこれは地球のすべての地域にとって重要だと考えている。だが、あらゆる火花が全世界的爆発を引き起こしかねない欧州にとっては、特に重要である。

現在、欧州大陸に新たな危険が迫っている。つまり米国のミサイル数百基が西欧に配備される見通しがある。率直に言わねばならないが、これは平和を一層もろいものにするだろう。

欧州諸国民、ひいては全世界の諸国民の頭上に迫っている脅威は、未然に防止できるとわれわれは考えている。欧州の平和は十分に救えるし、強化できる。しかも誰かの安全をそこなうことなしに、である。まさにこのためにわれわれは、すでに1年以上ジュネーブで、欧州ゾーンにおける核軍備の制限、削減について米国と交渉しているのだ。

ソ連はずっと先まで進む用意をもっている。周知のようにわれわれは、欧州の目標をたたくためのあらゆる種類の核兵器を――中距離核をも戦術核をも含めて――放棄する協定を提案した。だがこのイニシアチブは沈黙の固い壁にぶつかった。どうやら、それを受け入れたくはないのだが、公然とはねつけるのもまずい、といったところらしい。われわれの提案は依然として有効であることを、ここで再確認しておきたい。

われわれは、ソ連とNATO諸国が中距離兵器を1/3以下に削減するという別の案も出した。この提案に対して米国は、今のところ応じておらず、嘲笑的に〝ゼロ・オプション〟と名付けられた提案を出してきた。この提案は、欧州に配備されているNATOの核ミサイル軍備をそのまま保持するか、または増強しさえする一方で、ソ連の欧州部だけでなくアジア部にも配備されているソ連の中距離ミサイルを全部撤去させようとするものである。ソ連がこの提案に同意できると真面目に考える者が、はたしているだろうか？　ワシントンは交渉の不成功を口実に、なんとか欧州に自国のミサイルを配備するために、協定をぶち壊したいのだろう。

はたしてそうであるかどうかは、未来が示すだろう。われわれは今後とも、双方にとって公正な基盤に立って協定のために努力していくつもりである。われわれは特に、ソ連が欧州に、イギリスおよびフランスがそこに保有しているのと同数のミサイルだけを、それを一基たりとも上回らない数を残すことにも同意する用意がある。それは、ソ連が西側でSS20と命名されている最新型のミサイル数十基を含め数百基のミサイルを削減することを意味する。ソ連と米国に関していえば、これは中距離ミサイルに関する真に誠実な〝ゼロ・オプション〟となるだろう。またイギリスとフランスのミサイルが将来削減されれば、ソ連のミサイル数も同じ数だけ追加削減されよう。

これとともに、ソ連ならびにNATO諸国がこの地域に配備している中距離核兵器搭載航空機の数も、双方同じレベルに削減することについても合意しなければならない。

われわれは、まだチャンスがあるうちにこのチャンスを生かし、この明確かつ公正な合意を受け入れるよう、相手側に呼びかける。しかし誰も思い違いなどしないでもらいたいが、われわれはわれわれの安全、わが同盟諸国の安全が脅威にさらされるのを決して許さない。米国の新型中距離兵器を欧州に配備することが、核軍備全体を制限する今後のすべての努力に、いかに重大な結果を必然的に残すかについても、考えなければなるまい。つまりいまや米国側が答えるべき番である。

最後に言っておくが、われわれはすべての諸国民の互恵と全人類の幸せをめざす、世界のすべての諸国民の幅広く実り多い、強圧や他国の内政の干渉とは縁のない協力を求めている。ソ連は現在および未来の世代のために、安らかで平和な未来を保障することに全力を尽くすであろう。これがわが政策の目標であり、われわれはこの目標から後退しない。

＊　＊　＊

同志のみなさん！　われわれはソビエト社会主義共和国連邦が60年間に歩んだ道をふり返り、われわれのすべての成果と勝利が、レーニン的共産党の活動と固く結びついていることをはっきり目にしている。ほかならぬ党こそ、社会的進歩のあらゆる方向でのたえまない前進を保障する、強力な創造的な動員力であったし、いまもそうである。

わが党はそのイデオロギー、成員、構成から見て、ソ連の大小すべての諸民族の統一と団結の生きた具現である。党は政策の目標を民族的利益とインターナショナルな利益との調和のとれた結合におき、各民族の繁栄と全面的発達がわが兄弟的連邦全体の発展と繁栄の前提となるような社会的条件をつくっている。

われわれが「国民と党は一体である！」と言うとき、それは、党のかかげた目的と課題が、全ソ連国民の期待や要求を正確に表わしているという動かしがたい事実の確認にほかならない。わが数億の国民は、自分の仕事を通じて党の政策を実現している。その最も明白な証拠の一つは、すべての共和国が数々の成功を収めてこの記念日を迎えていることである。

同志のみなさん、ソ連邦結成60周年を記念して引き受けた社会主義的義務課題を達成、超過達成した何百万という先進的生産者たちに、心からの謝意を表したい。

ソ連共産党中央委員会、ソ連最高会議幹部会、ソ連閣僚会議を代表して、ここにわが偉大な連邦の誕生日である大きな祭日の熱烈なお祝いを、全ソ連国民に申し上げる。

共産主義を建設している諸民族の友好万歳！

プロレタリア的、社会主義的国際主義万歳！

世界平和万歳！

ソビエト社会主義共和国連邦に栄えあれ！

『今日のソ連邦』一九八三年2月1日号付録
発行人　加藤宣幸
編　集　ソ連大使館広報部
（郵便番号141・東京都品川区東五反田3—9—13・電話03—447・3536）
印刷・発行所　（株）新時代社
（郵便番号101・東京都千代田区西神田2—7—12・電話03—263・2811）